２０１９年度　理事長所信（案）

理事長　藏元　国明

２０１９年度　スローガン

「率先垂範」

～自己の行動が　未来を創る～

《はじめに》

「他人に変わって欲しければ、自ら率先して変化の原動力となるべきだ」

この言葉はインド独立という夢を叶えたマハトマ・ガンジーの言葉である。

　夢や希望を持ち、情熱を原動力として、挑戦できる特権が青年には与えられている。今を生きる我々が地域の抱える問題に圧倒的危機感を持って真剣に向き合いＪＣ（青年会議所）だからこそできる運動を発信していくことが時代そして地域に必要とされる組織である。

　皆思い出してほしい。新たに物事を始めた時の高い志を。日々の忙しさと時間に追われることで忘れてしまい気概を持って「やっていた」ことが、いつしか「やらされている」という意識にはなっていないだろうか。何事にも「やらされている」という思いで取り組むよりも「やってやるぞ」という積極的な姿勢で取り組むことができなければ、様々な機会があるＪＣにおいて、また社会においてもその機会をつかみ取ることはできない。まずは、自らの意識を変え、「やってやるぞ」の当事者意識のもと、「率先垂範」しようではないか。その踏み出す一歩が、我々の住み暮らす地域の発展と未来の新たな礎になると信じて。

《機動的な組織への進化》

霧島ＪＣは、まちの明るい豊かな未来に向けて活動する志を同じくするＪＡＹＣＥＥ（青年会議所会員）が、互いに刺激しあい、各々の能力を高めあえる場であり、強固な協力体制を構築できる組織です。しかし、主体的に活動できている会員とそうでない会員との意識の差が生じ、組織としての一体感が薄れ、運動の基盤となる組織運営を弱める一因となっています。強固な協力体制を持った影響力のある組織になるためには、会員をつなぐ円滑な連携体制を整え、一丸となり力強い運動を推進できるよう質の高い組織運営基盤を確立する必要があります。

霧島ＪＣの最高意思決定機関である総会では、法人格を有する組織として法令、定款、諸規定に準拠した適正かつ円滑な方法で運営していくことが重要です。そして、力強い運動を推進するために、会員間、委員会間の横のつながりを深め、協力体制を培うことが重要です。また、法人格の見直しを含め、実態に即した定款、諸規定の変更を検討し、会員に向け情報を公開するとともに将来に向けた方向性を協議し、時代に合った組織運営の構築が重要です。

本会の目的と指標を共有し、迅速な行動と正確な判断により、その時々の状況に応じて速やかに運用ができるようになることで機動的に行動できる組織へと進化すると確信します。

《地域の発展に貢献できるひとづくり》

　今後、日本は少子超高齢化社会に伴い生産年齢人口の減少が見込まれると同時に、地方では人口流出により労働力の確保が難しくなり、自ずと企業の推進力の低下とともに地域の発展にも影響を与える状況となります。この現状を打開するには、これからの社会を担う我々青年経済人が自分の社業の成果を残しながら、地域においても他者に良い影響を与えられる存在でなくてはなりません。そのため我々青年経済人は、先見の明を持ち、自ら率先して行動し地域や企業発展の原動力となりえる魅力あるリーダーとなる必要があります。

　ＪＣの、様々な機会を通じて経験を積み重ね、学び得た知識と知恵を社業に還元すれば企業の発展につながり、企業の発展は地域社会の発展につながります。また、自己成長し続けることは周りに様々な好循環をもたらし、私たちの自己成長こそが「明るい豊かな社会」への一歩となるのです。地域を変えるべく大きな力を得るには、自己研鑽の機会を通じて、会員一人ひとりの能力が向上し、地域や企業を牽引できる社会人基礎力を兼ね備えた魅力あるリーダーとなり、地域の発展に貢献できる人財となると確信します。

《共感の輪を広げる仲間づくり》

どんなに高い志を掲げても、一人ひとりの影響力には限界があります。愛するまちを「誰もが夢を描けるまち」するためには、我々の運動に共感してくれる一人でも多くの仲間が必要です。しかし、事業計画を立てるうえで、効果的な運動発信をするための広報に対して、優先順位が下がっている現状があります。霧島ＪＣを知ってもらわなければ、我々の運動に共感してくれる人は広がるはずもなく、独りよがりの自己満足の運動にしかなりえません。

　霧島ＪＣが常にまちの中心となり、共感の輪を広げるためには、目的ごとに戦略を持った効果的な広報を行わなければなりません。そして、ターゲットに合わせた情報の精査を行い継続的に実行していくことで、ＪＣの認知度を向上することで、ともに運動を推進してくれる仲間を増やし、我々の運動に対しての共感の輪を広げることにつながると確信します。

《率先して行動するＪＡＹＣＥＥづくり》

　他の地域と同様に、労働力人口の流出、減少による地域経済の縮小などの問題を抱えた我々のまちも、会員の減少が、組織を継続していく上での大きな不安要素になっています。しかし、時代のせいにして嘆いてばかりいるだけでは、混沌とするこの時代の未知の可能性は切り開くことはできません。力強い組織を継続して繋いでいくためには、会員全員がＪＣ運動に対して、理解と拡大の意識を高め、団結して取り組む気概を持つことが重要です。

　会員拡大の手法は様々ありますが、手法の選択よりも大切なのは、熱意であり行動力です。「必ず入会に導く」という強い想いと行動量がなければ人の心を動かすことはできません。とにかく実践しなければ何も変わらないのです。会員拡大は会員一人ひとりが当事者意識を持ち、組織の未来に対して、責任と覚悟を持って率先して行動することで、力強い組織を継続して繋いでいけると確信します。

《誰もが夢を描けるまちづくり》

　中央から地方へと地方分権を行う平成の大合併時代から、地域が独自の政策を掲げ地域を創造していく「地方創生」時代に突入した現在において、市民参加型まちづくりから市民参画型まちづくりへと地域情勢は大きく変わってきています。地域住民も誰かが作ってくれるまちではなく、自らが主体的に関わって作っていくまちづくりという意識が必要です。

　そのためには、誰もが夢を描けるまちを創っていかなければなりません。夢を描くとは未来に対して希望をもつことであり、郷土を愛する心が暮らしやすいまちづくりの原動力となります。郷土の発展を目的とした政策を立案し、実行という社会実験を若い世代を対象におこなうことで、自らが主体的にまちづくりに関わるという意識が芽生え、誰もが夢を描けるまちに近づくと確信します。

＜おわりに＞

青年会議所は、様々な個性を持ったメンバーが集い、自己を磨くことのできる素晴らしい団体です。しかし、自ら行動を起こさなければ何も変わりません。何もせずに誰かが何かを与えてくれるわけでもありません。自分自身が主体的に関わり、高い志を持って取り組むことで何かを掴み取ることができるのです。霧島ＪＣのメンバーであることに自信と誇りを持って、失敗を恐れずにメンバー全員で心をひとつに力を合わせ、「率先垂範」の意識で臨むことが私たちの愛するこのまちの未来を創ることへつながると確信します。

基本方針

機動的な組織への進化

地域の発展に貢献できるひとづくり

共感の輪を広げる仲間づくり

率先して行動するＪＡＹＣＥＥづくり

誰もが夢を描けるまちづくり

多くの機会を提供できる組織運営

＜第1回次年度正副理事長会議＞

意見1：スローガンの「率先垂範」の意味を教えてください。

対応1：人の先頭に立って物事を行い、模範を示すこと。

＜はじめに＞

意見２：全体的に文章（一文）が長いので、区切った方が読みやすいのではないか。

対応２：文章を区切り修正いたしました。

意見３：背景にある「国民の社会参画が少なくなり」とはどういう意味か。

対応３：社会に対してあまり関心がなく、主体的立場ではなく受動的になっている。

意見４：社会参画が少なくなったことと社会的つながりが薄れたことを深堀してみてはどうか。

意見４：背景に関しては各セクションに修正して記載しました。

＜会員一人ひとりの資質向上＞

意見５：3行目の接続詞がおかしいので修正してください。

対応５：修正しました。

意見６：3行目後半から5行目にかけての文章の繋がりがおかしいようなので修正してください。

対応６：修正いたしました。

意見７：会員一人ひとりの資質向上と機動的組織への進化は、まとめて文章を構成した方が良いのではないか。

対応７：まとめて文章を構成しました。

＜全会員での会員拡大＞

意見８： 接続詞がおかしいところが数カ所あるようなので修正をお願いします。

対応８：修正いたしました。

意見９：全体的にオブラートに包みすぎていて読み取りづらいので、思っていることを率直に書いた方が良いのではないか。

対応：自分自身が思うところを書かせていただきました。

＜第1回次年度理事会＞

意見１：「はじめに」の最後に「「未来ビジョン」を念頭に少しでも近づけるような活動をしてまいります」とありますが、せっかくですので少しでもではなく、それに沿っていくということを言っていただけたらなお良いのではないかと思います。

対応１：背景を全面的に修正いたしました。

意見２：前半に2つの問題提起があり、最後のところでそのためにこういう風にしてくという形で書かれています。未来ビジョンに沿ってという所は分かりやすくてよいのですが、「激動する時代の変化を捉え危機感を持って行動する」という箇所の必要性が分かりづらいので、もう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。スピードが速い、多様性を持っているということしか書かれていないので、もう少し深く書いていただければよいのではないかと思います。

対応２：背景を全面的に修正いたしました。

意見３：田上副理事長が言われた点を自分なりにもう少しいうと、率先垂範とはただ崎に動けばいいのではなく、模範となるという意味が含まれていると思います。私が今の時代で思うのが、情報が簡単に取れるからそれに流されてしまいやすいというのがあると思いますので、ＪＣとして本当に正しい情報を掴み行動していく、誰よりも先にそのような情報を捉えて模範となる行動をしていくということがここで表現できれば、藏元次年度がこのスローガンで表現したいことを表現できるのではないかと思います。

対応３：背景を全面的に修正いたしました。

意見４：率先垂範という素晴らしいスローガンがあるので、そこがゴールに見えてこなければならないと思います。

対応４：背景を全面的に修正いたしました。

意見５：「はじめに」は、しっかりと伝えたいことを伝えないと弱いかなと思います。ここで触れてほしいのは会員の意識をどうやって上げていくか。誰に訴えかけているのかを明確にして書いた方が良いと思います。

対応５：背景を全面的に修正いたしました。

意見６：資質向上から機動的組織への進化という表現について、資質向上から機動的組織への進化という意味がよく分からないです。

対応６：わかりにくいので、分けて記載いたしました。

意見７：会員一人ひとりの資質向上を図ることで会員にどうなってほしいのかを教えていただけたらと思います。

対応７：地域や企業を牽引できる魅力あるリーダーと書き加えました。

意見８：地域経済を担う経済人というところと会員の資質向上というところが2つあって、どちらをどうすればよいかが明確ではないと思います。

対応８：地域経済を担う経済人に絞り記載いたしました。

意見９：総務が何をやるのかが分かりにくいので、書き方をもう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。

対応９：最高意思決定機関である総会では、法令、定款、諸規定に準拠した適正かつ円滑な方法で運営していくことが重要です。と追記致しました。

意見１０：機動的に行動できる組織へと進化の内容が背景に出てこず、なぜ進化しなければならないかを記載してください。

対応１０：背景に記載いたしました。

意見１１：文章の下の部分は戦略的な広報で対応できる部分ではあると思うのですが、上の部分は広報のせいだけではないというか、ここを広報に結び付けてしまうのは少し強引なのではないかと思います。

対応１１：広報の担いになるような内容で記載修正いたしました。

意見１：２戦略的な広報発信から拡大へは、委員会に対して一つのセクションにしていると思うのだけれど、ここはたぶん2つくらいにした方がよいと思います。戦略的な広報と発信から拡大ではないけれど、2つのセクションに分けて文章を構成した方が分かりやすいと思います。

対応１２：文章を２つに分けて記載し修正いたしました。

意見１３：各種団体と連携したまちづくり・ひとづくりの背景部分にある問題提起の内容が、どこにかかっているかわかりにくいです。

対応１３：背景中の現状と問題提起がリンクするように修正いたしました。

意見１４：青少年事業の年齢対象は何歳くらいを考えているか。

対応１４：中高生以上を対象に考えています。

意見１５：全体的に手法が先行した内容になっているので、何故しないといけないのか、何故必要なのかを書いていただければと思います。

対応１５：何故しないといけないのか、何故必要なのかを記載いたしました。

意見１６：理事長が想う街像、どういう街にしたいというゴールが見えていないです。スローガンの内容も含め記載頂ければと思います。

対応１６：私が思う街像を記載いたしました。

意見１７：おわりにの部分は、個人の想いを書くのではなくやはり組織のトップなので組織のことを考えて文章を書いてほしい。

対応１７：意見を踏まえ、全体的に修正いたしました。

＜第２回次年度正副理事長会議＞

はじめに　について

意見：1　　2段落目からの書き方であると内向きにだけに強い感じがする。表現の仕方ですが、やっている。やっていた。であると伝わりにくいかと思う。やっていかなければという自分たちの意思でやらなければいけないという表現にした方が良いかと思う。

対応：１　対内外向けにも訴えかける表現に修正いたしました。また、「やっている」等の表現方法についても修正をいたしました。

能動的な組織について

意見２：　規則を重んじることで個人の活動意識が高まるのか疑問である。また、何かあった時にそれぞれの考えで動けるというのはわかるが、そこと規則を重んじることが繋がってこない。

対応２：　表現方法も含め相応しくないので削除しました。

意見３：　背景の組織運営の進化のところが分かりにくいと思うので、どういう風に進化するのかを書いた方がいいのでは。

対応３：　「力強い運動を推進できるよう質の高い組織運営基盤を確立する必要がある」と修正しました。

意見：４　「理事会を見せる仕組みを作り」とすると強制することが懸念されるので、言い方を変えた方が良い。

対応：４　限定的な手法も明記することは思わしくないので削除しました。

地域の発展に貢献できる人材育成について

意見：５　最初の人口減少進んで～　のところと後文との繫がりが少ない気がする。まったく別ではないが、社会構造の変化なのか。

対応：５　全体的に表現を修正しました。

意見：６　地域や企業をけん引するリーダーというのは、会社が発展していて、景気がいい人なのか？

対応：６　地域や企業を牽引できる社会人基礎力を兼ね備えた魅力あるリーダーと修正しました。

広報について

意見：７　戦略をもった広報、戦略的な広報という記載の仕方が良い。

対応：７　文章を全体的に修正いたしました。

拡大について

意見：８　こういう組織になるんだという部分はあった方が良い。

対応：８　力強い組織と付け加えました。

意見：９　数値目標は記載しないのか。

対応：９　数値目標はあえて記載いたしません。

　　　　まちづくり・ひとづくりについて

意見：１０　人づくりが上の経済人育成にもあり二項目になっているので違いはなにか。

対応：１０　わかりにくいので題目を内容に合わせて変更しました。

意見：１１　ひとつでも交わることはできるが、まちづくり事業のなかで青少年事業とすることは難しい。事業計画で二つ出てくるのであれば二つ必要。青少年に特化したまちづくり事業とすれば可能かとは思うが。どっちに重きをおくかによるので明確にして欲しい。

対応：１１　まちづくりの中で対象者を青少年とします。

意見：１２　まちづくりの説明になっていて、テーマが見えない。

対応：１２　題目も含め全体的に修正いたしました。

意見：１３　他団体となると難しいと思うので、青少年とＪＣとかはまだやりやすいと思う。どの様な方向性でやるか明確にしてほしい。

対応：１３　他団体に協力等はもとめるが、ＪＣで政策立案し、若い世代を対象として事業を実行する旨を記載いたしました。

　　　　　さいごに　について

意見：１４　文末の最後は、言い切った方が良いと思う。

対応：１４　修正いたしました。